



International  
Volunteer  
Program



国際ボランティアプログラム  
2024

国連ユースボランティア/  
国際社会貢献活動



# International Volunteer Program

絶対「智」の経験

# 世界市民 派遣先はアジア、 アフリカ、欧州、太平洋 国際ボランティア派遣 環境

世界で初めての取り組み  
国際協力や開発支援  
UNV  
ジェンダー

貧困削減



## 関西学院大学と 国際ボランティア

関西学院大学は、世界で3番目、アジアで初めて国連ボランティア計画 (UNV) と協定を締結しました。この協定に基づき、本学が2004年に開発途上国への学生ボランティア派遣を開始しました。2013年からは、新たな制度「国連ユースボランティア」として実施されたのを機に、関西学院大学内に「国連ユースボランティア」派遣日本訓練センターが設置されました。「国連ユースボランティア」のトレーニングセンター設置は、世界で初めての取り組みです。UNVによる最終選考を通過した派遣候補者は、センターが提供する事前研修で派遣に備えて知識とスキルを磨きます。

「国連ユースボランティア」派遣生は、UNVのコーディネートにより、約5カ月間、主に開発途上国の国連諸機関に派遣されます。派遣先国はアジア、アフリカ、欧州、大洋州の各国です。ホームページやポスター作成などの広報活動やプロジェクト運営支援などを通じて、教育・保健衛生・環境・ジェンダー・貧困削減などの活動に携わります。2013年には関西学院大学が独自に開発した「国際社会貢献活動」が加わりました。派遣先は国際機関、NGO、教育機関等で、活動内容は学校教育補佐、日本文化紹介、広報活動、フィールド調査、エコツアー開発・実施等、多岐にわたります。現在、これら2プログラムは『国際ボランティア』として実施されており、派遣者数は300名を超えました(2023年時点)。

学生たちは、国際協力や開発支援の現場で、“世界市民”になるための資質を実践的に養います。与えられた業務をやり遂げることで、学生たちは見違えるほどに成長します。卒業後は、産業界をはじめとする各界での活躍にとどまらず、国内外の大学院で学びを深める学生も多数います。

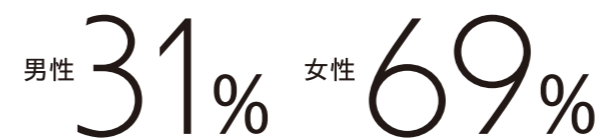
- プログラム紹介 ▶ P.3
- 履修科目紹介 ▶ P.7
- 履修モデル ▶ P.8
- 参加者の声 ▶ P.9
- 教職員紹介 ▶ P.14

目次

## See the World, Be a World Citizen

「国連ユースボランティア」と「国際社会貢献活動」から構成される国際ボランティアプログラムでは、主に開発途上国で約5カ月間活動します。日本とは全く違う環境に身を置き、自分を見つめ直すことで、国際性と社会貢献への使命感を身に付けた「世界市民」として成長することを目指しています。出身学部も神学部・文学部・社会学部・法学部・経済学部・商学部・総合政策学部・人間福祉学部・教育学部・国際学部と多岐にわたり、学生それぞれが、自分の学部での学びをさらに発展させるため、派遣先機関に様々な形で貢献し、活動を行っています。

### 男女比



### 派遣国 (2023年度実績)

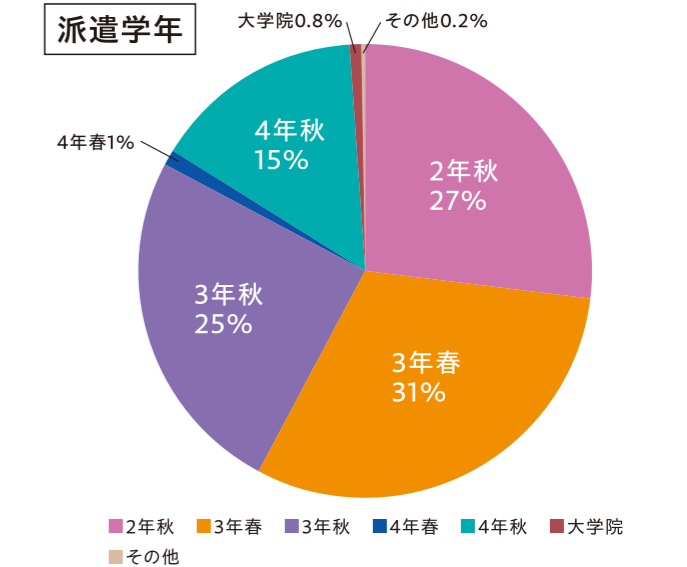
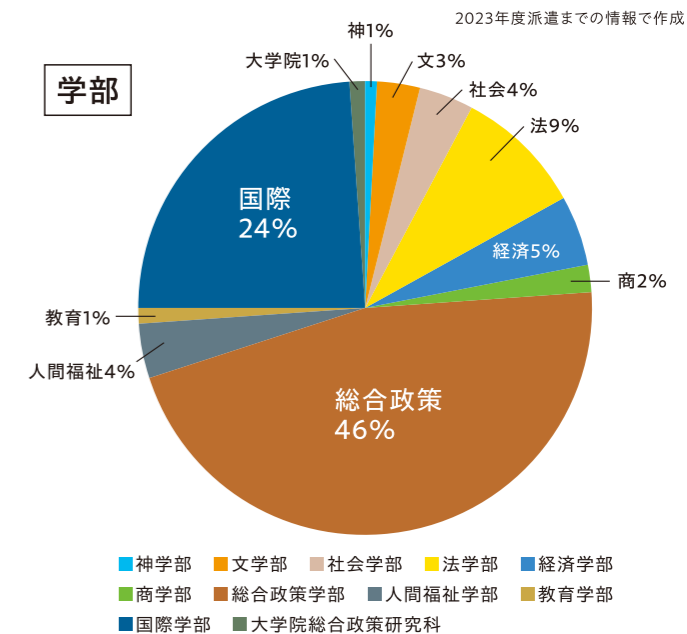
- 国連ユースボランティア**  
ガーナ、サモア、タイ、ナミビア、ネパール、ヨルダンなど
- 国際社会貢献活動**  
インドネシア、カンボジア、キルギス、タイ、ネパール、ベトナム、マレーシア、モンゴル、ラオスなど

### International Volunteer Program

## 国際ボランティアプログラムが 求めるもの

このプログラムが他の留学プログラムと異なるのは、自発的・能動的なアクションが求められる点です。派遣中は、予定していない業務を急に任せられたり、逆になかなか仕事を与えてもらえないこともあります。そんな時、相手からの指示を待っているだけでは、何も得られません。このプログラムでは、自分の置かれている状況を冷静に分析・理解する知性 (Intelligence)、自ら進んで活動に取り組む行動力と挑戦の心意気 (Vitality)、そして派遣先機関や国に自分なりに貢献するぞ!という強い情熱 (Passion) が求められます。そのため、学内選考を通過した後も、学部の授業に加え、任国についての勉強や自分の業務について先輩学生から引き継ぎながら、国際ボランティア担当教員の指導の下、学内選考後から派遣までの約8カ月間準備を重ねます。長い準備期間や波瀾万丈な派遣期間は楽しいことばかりではなく、つらいことも多いはずですが、自分で常に考え行動しながら、困難を乗り越えてきた帰国学生たちは、それぞれ自信をもって次のステップに進んでいっています。自分の成長を感じられる。それがこのプログラムの何よりの魅力ではないでしょうか。

### 数字で見る国際ボランティア



|              |     |
|--------------|-----|
| Intelligence | 知性  |
| Vitality     | 行動力 |
| Passion      | 情熱  |

# UNYV 国連ユースボランティア

United Nations Youth Volunteers



「国連ユースボランティア」は、アジアの大学として初めて関西学院大学が国連ボランティア計画 (UNV) との協定に基づき、学生を開発途上国の国連諸機関にボランティアとして派遣しているプログラムです。基幹校である本学のほかに、2023年度現在国内の3大学\*が連携校として参加しています。派遣先はアジア、アフリカ、欧州、大洋州の各国に所在する国連諸機関です。(実績: UNDP、UNICEF、UNWOMEN等) ITスキルを活かしてウェブサイトやポスター作成などの広報活動を実施したり、国連デーなどのイベントの企画・運営支援などを通して、教育・保健衛生・環境・ジェンダー・貧困削減などの活動に携わります。

\*明治大学、明治学院大学、立教大学

## 参加資格

1. 派遣年の9月1日時点で18歳以上26歳以下かつ学部2年生以上であること。  
(大学院生は不可)。※出願は1年生から可。
2. 学業成績が良好であること。
3. 派遣者選考時にTOEFL ITP®500点以上 (TOEFL iBT®61点以上もしくはIELTS5.0以上、TOEIC®630点以上) の英語力を有することが望ましい。
4. 開発途上国の厳しい生活環境や異文化環境においても心身の健康を維持し、困難な状況に対応できること。
5. 国際協力や開発に関する基礎知識を持ち、各活動分野において実践的応用力を発揮できること。
6. 派遣前の「国際ボランティアゼミⅠ」及び「国際ボランティアゼミⅡ」を修得すること。
7. 派遣後の「国連ユースボランティア課題研究」を履修すること。  
※事前研修などの講義及び派遣手続きは日本語で実施されるため、日本語での意思疎通が十分にできることが必須です。



## 派遣時期

秋学期 (9月下旬頃～翌年2月下旬頃)

## 奨学金

奨学金の給付はありませんが、UNVから航空券、現地滞在費などの手当が支給されます。

## 事前学習

学内選考後から派遣までの間に、国際ボランティア担当教員の指導の下、派遣準備科目 (国際ボランティアゼミⅠ及びⅡ) を履修します。また、関西学院大学内に設置されている「国連ユースボランティア」派遣日本訓練センターにおいて、連携校の学生と共に、ICT研修やプロジェクトマネジメントなどの現地で有効なスキルを学習します。



- ・将来、国連職員になりたい! 国際機関で働いてみたい!
- ・いろんな国の人と一緒に仕事をしてみたい!
- ・デザインやカメラワークに自信あり。ITスキルを発揮してみたい!

## 科目・単位数

|                   |                                |
|-------------------|--------------------------------|
| グローバル<br>スタディーズ科目 | 「国連ユースボランティア実習」<br>(認定評価)12単位  |
| グローバル<br>スタディーズ科目 | 「国連ユースボランティア課題研究」<br>(素点評価)4単位 |
| 計16単位             |                                |

※国際学部生については科目取扱が異なります。詳細は「国際学部留学ガイド」を参照してください。

# IVA 国際社会貢献活動

International Volunteer Activity



関西学院大学が独自に開発したプログラムです。国際協力機構 (JICA) の協力先機関、海外のNGO、教育機関、赤十字国際委員会 (ICRC) などの国際機関に派遣され、各種支援業務に従事します。活動内容は、学校教育の補佐、日本文化紹介、フィールド調査、エコツアー開発・実施など多岐にわたります。より現場に近い環境で、派遣先スタッフや現地の人々と共に活動しながら、開発途上国の現状を学びます。

## 参加資格

1. 派遣時に学部2年生の秋学期以降であること (出願は1年生から可)。  
大学院生は別途問い合わせが必要です。
2. 学業成績が良好であること。
3. 開発途上国の厳しい生活環境や異文化環境においても心身の健康を維持し、困難な状況に対応できること。
4. 国際協力や開発に関する基礎知識を持ち、各活動分野において実践的応用力を発揮できること。
5. 現地のスタッフと業務、活動を共に行うための英語力を所持していること。ICRCおよび日越大学については、派遣者選考時にTOEFL ITP®500点以上 (TOEFL iBT®61点以上もしくはIELTS5.0以上、TOEIC®630点以上) の英語力を有することが強く望まれます。
6. 派遣前の「国際ボランティアゼミⅠ」及び「国際ボランティアゼミⅡ」を修得すること。
7. 派遣後の「国際社会貢献課題研究」を履修すること。  
※事前研修などの講義及び派遣手続きは日本語で実施されるため、日本語での意思疎通が十分にできることが必須です。



## 派遣時期

春学期 (4月上旬頃～8月下旬頃)  
秋学期 (9月下旬頃～翌年2月下旬頃)

## 奨学金

国際社会貢献活動奨学金 (30万円) が支給されます。  
※国際学部生には、原則として上記に代わり「国際学部留学奨励金」(40万円) が適用されます。  
※時期によっては、トビタテ留学JAPANに出願できる可能性があります。

## 事前学習

学内選考後から派遣までの間に、国際ボランティア担当教員の指導の下、派遣準備科目 (国際ボランティアゼミⅠ及びⅡ) の履修に加え、安全対策や任国事情の調査・発表を行う事前研修を受講します。



- ・より現場に近い環境で活躍したい!
- ・開発途上国の人たちのために、何か貢献したい!
- ・グローバルな視野を持ちたい!

## スケジュール (プログラム参加の流れ)

| 春学期                       | 秋学期  |          |
|---------------------------|------|----------|
| 5月                        | 11月  | 出願       |
| 6月                        | 12月  | 学内候補者決定  |
| 受入先による審査のためのCV / Essayを作成 |      |          |
| 11月                       | 5月   | 受入先による審査 |
| 3月                        | 8月   | 事前研修     |
| 4~8月                      | 9~2月 | 出発、現地で活動 |
| 8月                        | 2月   | 帰国       |
| 10月                       | 4月   | 帰国報告会    |

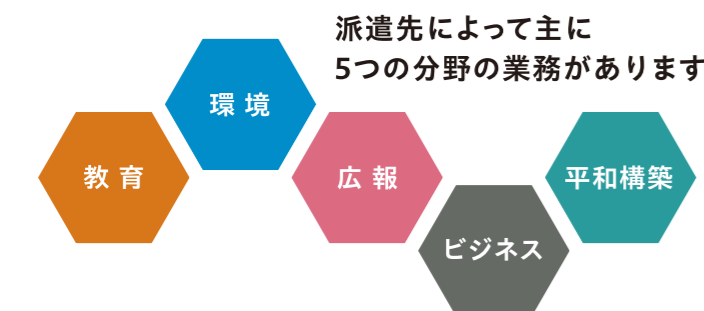
## 科目・単位数

|                   |                           |
|-------------------|---------------------------|
| グローバル<br>スタディーズ科目 | 「国際社会貢献実習」<br>(認定評価)12単位  |
| グローバル<br>スタディーズ科目 | 「国際社会貢献課題研究」<br>(素点評価)4単位 |
| 計16単位             |                           |

※国際学部生については科目取扱が異なります。詳細は「国際学部留学ガイド」を参照してください。

## 国際社会貢献活動の業務分野

国際社会貢献活動は、派遣先によって業務内容が大きく異なります。出願期間が始まる時期に、募集派遣先を公開しますので、国からだけでなく、多岐にわたる業務の中から興味のある分野を探して出願することもできます。



**教育** **ネパール、インドネシア、マレーシアなど**  
小・中学校や高校などの教育機関で、主に子どもたちに日本語や日本文化を教える業務です。英語の使用が基本となりますが、年次の低い子どもの場合には現地語が使えたいというケースもあります。

**環境** **マレーシアなど**  
環境保全に関するツアーの準備と実施を担当します。また、ウェブサイトなどの更新を行い、派遣先機関の環境保全活動に対する啓発活動も行います。

**広報** **カンボジア、マレーシアなど**  
派遣先機関の活動を広く理解してもらうため、SNSや広告媒体を通じた広報活動を行います。ウェブサイトの更新やイベント企画のための情報収集やカメラマンとしてイベントに同行するという業務もあります。

**ビジネス** **カンボジア、ベトナム、ラオス、キルギス、モンゴルなど**  
主に国際協力機構（JICA）の協力先機関において、ビジネス関連の研修やセミナーの企画・運営サポートや、ウェブサイトなどの活動情報発信や広報事業に携わります。配属部署によっては、現地と日本の文化交流の促進や日本語教育の補助といった業務を担うこともあります。

**平和構築** **オーストラリア、ドイツなど**  
ICRCでの業務は、オーストラリア（キャンベラ）などのICRC事務所にて、人道援助に関わるリサーチや書類の作成、イベント運営などを行います。SNSを使った広報活動にも携わることがあります。国際人道分野における大学院レベルの深い知識やリサーチスキルと合わせて、高い英語力（特にリーディング、ライティング）が求められます。ドイツでの活動は、国際平和村に入所している子どもたちの日常生活のお世話をします。子どもたちやスタッフと会話できる程度の中級レベルのドイツ語能力が必要です。  
※ICRC・ドイツ平和村は現在派遣休止中



国際社会貢献活動で学んだこと

2023年度春学期 ジャパンハート(UH) 派遣 総合政策学部 田井通香

私はカンボジアにある「ジャパンハート子ども医療センター」という病院で、主に広報業務やボランティアの受入、オンラインイベントの実施等を行っていました。最も注力したのが小児がんの子どもたちの支援です。非医療従事者でも「子どもたちの心を救う医療」には携わることができるという強い思いで様々な活動に取り組んで参りました。そのうちのひとつが、沖縄美ら海水族館様のご協力で実現した遠隔授業です。スクリーンに映る海の生き物に子どもたちは大きな歓声を上げて見入っており、子どもたちや親御さんの弾ける笑顔を見た時には大きなやりがいや幸せを感じました。約5か月の活動期間中は掛けそうになることもありましたが、自分が何のために活動しているのかを明確にできたため、試行錯誤しながら日々挑戦することができたと感じております。本ボランティアを通して、目的意識を持ち物事に取り組むこと、また揺るがない自分の軸を持ち人生を歩むことの重要性を学びました。

Japan Heart Children's Medical Center

派遣先紹介 | 特定非営利活動法人  
ジャパンハート子ども医療センター

ジャパンハートは、小児外科医の吉岡秀人医師によって2004年に設立された、日本発祥の国際医療NGOです。「すべての人が、生まれてきて良かったと思える世界を実現する」というビジョンのもと活動を行っています。海外ではミャンマー・カンボジア・ラオスの3か国にて医療活動を展開しており、小児がん手術などの無償の高度医療を含む治療を年間約35,000件、累計すると30万件以上の治療を行ってきた実績があります。団体の活動は、日本から参加する多くの医療者や学生のボランティアによって支えられており、これまで通算5,000名以上の方にボランティアとしてご参加いただいています。

## Q&A

よくある質問



**Q1** 英語力はどの程度必要ですか？

出願時に英語の成績は問いません(ただし出願時にTOEFL®、TOEIC®などの英語能力を証明する書類の提出は必要です)が、派遣先での業務遂行が可能なレベルの英語力が求められます。派遣先によって求められる英語能力及びその他の外国語能力は異なりますので、詳細はCIECまでお問い合わせください。なお、国連ユースボランティアと国際社会貢献活動(赤十字国際委員会(ICRC)、日越大学)については、TOEFL ITP®500点以上の英語力が求められます。

**Q2** 派遣国の言語は必要ですか？

派遣国の言語が話せることは選考及び活動するうえで有利です。しかし、派遣国の言語ができなくても、英語能力を証明する書類があれば応募することは可能です。なお、ドイツ国際平和村での活動は、業務遂行に最低限必要な中級程度のドイツ語能力が必須です。



**Q3** 事前に「国際ボランティア関連科目」を履修していませんが、応募できますか？

事前の「国際ボランティア関連科目」の履修は、出願にあたっての必須条件ではありませんが、派遣先で活動するにあたって有益です。計画的に履修のうえ出願することを強くお勧めします。なお、学内選考を通過した派遣候補生は、派遣前の「国際ボランティアゼミⅠ及びⅡ」の修得、及び派遣後の「国連ユースボランティア(国際社会貢献)課題研究」の履修が必須となります。

**Q4** 開発途上国滞在経験が全くないのですが、参加は可能ですか？

本プログラムでは、長期間開発途上国へ派遣されるため、派遣までに少なくとも2週間程度の開発途上国渡航経験があることが望まれます。開発途上国渡航経験がない方は、「海外フィールドワーク(P.12参照)」を事前に履修しておくことをお勧めします。

**Q5** 派遣中に日本に一時帰国することはできますか？期間延長はできますか？

5カ月間の派遣期間中の一時帰国は認められません。派遣期間中は現地での活動に専念してください。また、あらかじめ決められた派遣期間を延長することもできません。

**Q6** 休学して国際ボランティアに参加することはできますか？

本プログラムは授業科目であり、休学して参加することはできません。また、渡航期間中は学費納入が別途必要です。

**Q7** 大学院生は国際ボランティアプログラムに参加できますか？

「国連ユースボランティア」は対象を学部生に限定しています。「国際社会貢献活動」に参加を希望する場合は、必ず事前にCIECにご相談ください。

**Q8** 国連ユースボランティアと国際社会貢献活動の併願は可能ですか？

可能です。出願時にどちらを第一希望、第二希望とするか入力してください。両方に興味をお持ちの場合は、P.14記載の教員へ出願前に相談を行うことを推奨します。

## 履修科目紹介

### 履修が強く望まれる科目

### 国際ボランティア関連科目

本学から派遣される国際ボランティア派遣生は、現地到着後、即戦力として担当業務だけでなく、自ら進んで様々な企画や課題改善に取り組むことが期待されます。そのため、国際社会における開発支援や教育援助に関する以下関連科目の履修が強く推奨されています。また、以下関連科目のうち、★印がついている科目については、事前申込が必要な科目です。履修を希望する場合、通常の履修科目登録期間前の申込期間内に所定の手続きを完了する必要がありますので、ご注意ください。



### 西宮上ヶ原キャンパス **NUC** または神戸三田キャンパス **KSC** で開講される科目 (2024年度)

| 申込方法 | 学期  | 区分     | 科目コード  | ナンバリング | 科目名                | 単位 | 履修基準年度 | 開講場所    | 定員  |
|------|-----|--------|--------|--------|--------------------|----|--------|---------|-----|
| ★    | 春   | 導入     | 495300 | 100    | グローバル社会の課題と持続可能な未来 | 2  | 1      | KSC     | 100 |
| ★    | 春   | 導入     | 495310 | 100    | SDGsスタディーズ入門       | 2  | 1      | NUC     | 200 |
| ★    | 春   | 導入     | 495110 | 200    | 国際情報分析             | 2  | 1      | NUC KSC | 24  |
|      | 春   | 国際共通課題 | 495115 | 300    | 国際環境論              | 2  | 1      | NUC     | -   |
|      | 春   | 国際共通課題 | 495120 | 300    | 教育開発論              | 2  | 1      | NUC     | -   |
| ★    | 春集中 | 論理思考   | 495130 | 200    | プロジェクトマネジメントI      | 2  | 1      | NUC     | 24  |
| ★    | 秋   | 導入     | 495300 | 100    | グローバル社会の課題と持続可能な未来 | 2  | 1      | NUC     | 120 |
| ★    | 秋   | 導入     | 495310 | 100    | SDGsスタディーズ入門       | 2  | 1      | NUC     | 100 |
| ★    | 秋   | 導入     | 495110 | 200    | 国際情報分析             | 2  | 1      | NUC KSC | 24  |
|      | 秋   | 国際共通課題 | 495121 | 300    | 国際平和構築論            | 2  | 1      | NUC     | -   |
| ★    | 秋集中 | 論理思考   | 495130 | 200    | プロジェクトマネジメントI      | 2  | 1      | NUC     | 24  |

[注] ★事前申込が必要な科目

備考 ○事前申込科目は履修者が定員を超えた場合、当落抽選が実施されます。一度当選すると、学期途中での履修中止が一切できませんので、あらかじめ理解したうえで、申し込みしてください。  
○上記科目の詳細については、上記一覧表の科目コードをウェブシラバス上に入力のうえ、確認してください。○年度によって科目が開講されない可能性があります。

### 国際ボランティア参加を目指す方にオススメの留学プログラム

| 実施時期  | 区分   | 科目名                      | 単位    | 開講国・地域 | 定員 |
|-------|------|--------------------------|-------|--------|----|
| 夏季・春季 | 模擬体験 | 海外フィールドワーク(マレーシア)        | 2     | マレーシア  | 15 |
| 春季    | 模擬体験 | 海外フィールドワーク(ベトナム)         | 2     | ベトナム   | 15 |
| 夏季    | 模擬体験 | 国連セミナー                   | 4     | アメリカ   | 20 |
| 夏季    | 模擬体験 | インドネシア交流セミナー             | 2     | インドネシア | 15 |
| 春季    | 模擬体験 | 外国語研修(サティア・ワチャナ・キリスト教大学) | 1~3   | インドネシア | 20 |
| 夏季・春季 | 模擬体験 | 外国語研修(マラヤ大学)             | 1~3   | マレーシア  | 25 |
| 夏季・春季 | 模擬体験 | 外国語研修(チェンマイ大学)           | 1~3   | タイ     | 16 |
| 秋学期   | 模擬体験 | 英語中期留学(マラヤ大学)            | 11~16 | マレーシア  | 15 |
| 夏季・春季 | 模擬体験 | 短期海外インターンシップ(ベトナム)       | 4     | ベトナム   | 12 |
| 夏季・春季 | 模擬体験 | 短期海外インターンシップ(マレーシア)      | 4     | マレーシア  | 12 |
| 春季    | 模擬体験 | グローバルPBL(タイ)             | 2     | タイ     | 10 |

備考 ○海外フィールドワーク/インドネシア交流セミナー/外国語研修/英語中期留学については、国際教育・協力センター(CIEC)発行の国際教育・協力プログラム募集要項にて詳細を確認してください。なお、国連セミナーについては、国連・外交統括センター(UNFA)にお問い合わせください。

## 履修モデル

### 履修モデル紹介

大学入学後から卒業までの履修モデルは、人によって異なります。国際ボランティアプログラムは、約5ヶ月の「実習」と帰国後の「課題研究」から構成されます。また、学内選考後、約1年間派遣に向けて準備することもあり、参加を希望する方は、なるべく早い段階で卒業までの履修計画を立てることが推奨されます。以下で紹介しているモデルケース以外にも、様々な複数プログラムと掛け合わせて挑戦することが可能です。

※以下のケースはいずれも例であり、実際の履修モデルはこの限りではありません。

### A 「国際社会貢献活動」または「国連ユースボランティア」への参加を目指す方

在学中に国際ボランティアに挑戦したい方が目指す一般的なモデルケースになります。入学後早い段階で、外国語研修や海外フィールドワークなどで開発途上国の経験を積み、2年生の秋学期以降に国際ボランティアプログラムに挑戦するケースになります。

#### 「国際社会貢献活動」に3年春に参加する場合

| 学年      | 1年           |                          | 2年          |              | 3年                    |                        | 4年 |   |
|---------|--------------|--------------------------|-------------|--------------|-----------------------|------------------------|----|---|
|         | 春            | 秋                        | 春           | 秋            | 春                     | 秋                      | 春  | 秋 |
| 参加プログラム |              | 外国語研修(春休み)               |             |              | 国際社会貢献活動              |                        |    |   |
| 準備・履修   | SDGsスタディーズ入門 | グローバル社会の課題と持続可能な未来<br>出願 | 国際ボランティアゼミI | 国際ボランティアゼミII | 国際情報分析<br>国際ボランティアゼミI | 国際社会貢献実習<br>国際社会貢献課題研究 |    |   |

#### 「国連ユースボランティア」に3年秋に参加する場合

| 学年      | 1年        |       | 2年                 |             | 3年                           |                                  | 4年 |   |
|---------|-----------|-------|--------------------|-------------|------------------------------|----------------------------------|----|---|
|         | 春         | 秋     | 春                  | 秋           | 春                            | 秋                                | 春  | 秋 |
| 参加プログラム | 海外FW(夏休み) |       |                    |             |                              | 国連ユースボランティア                      |    |   |
| 準備・履修   | 出願        | 教育開発論 | グローバル社会の課題と持続可能な未来 | 国際ボランティアゼミI | プロジェクトマネジメント<br>国際ボランティアゼミII | 国連ユースボランティア実習<br>国連ユースボランティア課題研究 |    |   |

### B 「国際社会貢献活動」および「国連ユースボランティア」両方への参加を目指す方

入学後早い段階で海外フィールドワークまたは外国語研修に参加し、開発途上国の経験を積んだうえで、国際ボランティア関連科目の履修と赴任国で業務を行う際に不自由のない高い英語力を計画的に身に付ける必要があります。

| 学年      | 1年        |       | 2年          |              | 3年                     |        | 4年 |                                  |
|---------|-----------|-------|-------------|--------------|------------------------|--------|----|----------------------------------|
|         | 春         | 秋     | 春           | 秋            | 春                      | 秋      | 春  | 秋                                |
| 参加プログラム | 海外FW(夏休み) |       |             | 国際社会貢献活動     |                        |        |    | 国連ユースボランティア                      |
| 準備・履修   | 出願        | 教育開発論 | 国際ボランティアゼミI | 国際ボランティアゼミII | 国際社会貢献実習<br>国際社会貢献課題研究 | 国際情報分析 | 出願 | 国連ユースボランティア実習<br>国連ユースボランティア課題研究 |

### C 「交換留学」に加えて国際ボランティアへの参加を目指す方

国際ボランティアと同様、「交換留学」は約1年前に、出願などの留学に向けての準備が生じるため、的確な情報収集と高い計画性が求められます。

| 学年      | 1年        |    | 2年                 |             | 3年           |   | 4年 |   |
|---------|-----------|----|--------------------|-------------|--------------|---|----|---|
|         | 春         | 秋  | 春                  | 秋           | 春            | 秋   | 春  | 秋 |
| 参加プログラム | 海外FW(夏休み) |    | 交換留学               |             |              | 国連ユースボランティア<br>または国際社会貢献活動                                    |    |   |
| 準備・履修   | 出願        | 出願 | グローバル社会の課題と持続可能な未来 | 国際ボランティアゼミI | 国際ボランティアゼミII | 国連ユースボランティア実習<br>国連ユースボランティア課題研究<br>または国際社会貢献実習<br>国際社会貢献課題研究 |    |   |



自分だけのストーリーを描けた5ヶ月の  
UNYV奮闘記 S タイ王国を舞台に S

グラムを主に担当しています。  
 中でも、12月の下旬、それまで学んだことを元を考えて自分が提案したオンラインサミットの企画が採用されたことが、UNYV生活にさらに実りあるものになる大きな転換点でした。自分のオフィスにとどまらず、アジア太平洋のいろんな国の若者や、カントリーオフィスのUN職員の方など、UN内外の様々な人と協力して企画をマネジメントする貴重な経験に繋げることができたからです。いろんな国の若者が、文化やバックグラウンドは違えど、SDGsという共通言語のもとで団結して、ソーシャルインパクトを作り出していく。私をエンパワーメントしてくれたUNDPの動画を見た時から頭で思い描いていたものを、まさに実現することができた期間でした。この企画をサポートしてくれる方とのミーティングの中で、もっと良いものにするための新たなアイデアが生まれたり、「素敵な機会を作ってくれてありがとう」と沢山の声を頂いたり、時間的にも内容的にもチャレンジングな中でも、日々やりがいを噛み締めながら頑張ることができました。最初の頃は、正直不安な気持ちを抱え毎日オフィスに足を運んでいました。しかし、自分の力でチャンスを作り出したこと、それによって沢山のつながりが生まれたこと、企画運営を通して繋がりや、この環境で活動していることの喜びを感じながら堂々とオフィスに通うことができるようになったのも、大きな変化でした。



「国連ユースボランティア参加者の声」のより詳しい内容はこちらからご覧いただけます

### 国連ユースボランティアに参加した理由

中学3年生の時、人生の軸になるような1本の動画に出会いました。UNDPによって作成されたSDGsの動画で、いろんな国の若者が集まり、社会問題に対するアプローチを模索していました。動画の中の若者たちはエネルギーに満ちていて、鳥肌が立つほどワクワクしたのを今でも鮮明に覚えています。その日から、SDGsは私の人生の軸となり、SDGsの達成に貢献することが目標になりました。私の一生かけて叶えたい夢のきっかけくれたのは、間違いなくUNDPでした。その後、国連ユースボランティアUNYVのプログラムに惹かれ、関学に入学することを決断するも、一度は完全にこのプログラムに挑戦することを諦めました。志望要件が自分の実力とかけ離れていること、興味関心が社会起業に移っていたこと、就活の時期とまる被りしていること等、挑戦を拒む理由は沢山ありました。刻々と締切日が迫る中、悩んでばかりの自分を変えたいと思い、恩師の元に相談にいきました。恩師が背中を押してくれたことが糧となり、覚悟をきめ応募することを決意しました。ただ、私はその時点で現地の方との距離の近い関学の社会貢献活動とも迷っていました。もしUNYVのポストに自分とフィットするものがなければ社会貢献の方にシフトすることも念頭においていた矢先、4月の下旬ようやくポストが公開され、予想していなかったユニークなポジションがありました。Youth Civic Engagement Assistantというタイトルで、アジア太平洋の若者をエンパワーメントすることを目的とした仕事です。私自身がUNDPにエンパワーメントされ、夢を見つけ、努力を継続できたように、今度は私自身が国連職員という立場で若者をエンパワーメントしたいという強い思いから、最終的に参加することを決断しました。

### 活動中で印象に残っていること

1つに決めきれないほど、印象に残っている出来事で溢れています。私は主に、若者自身がファシリテーターとなりSDGsの様々なトピックでワークショップを開催するMoversというプロ



2023年度参加

伊藤 美彩

MISA ITO

所属  
総合政策学部3年(派遣時)

派遣先機関  
UNDP(国連開発計画)

派遣先国



### 国連ユースボランティアに参加した理由

高校2年生の時に、ベトナムで他国の生徒達とアジアの肥満問題について議論する機会がありました。それまでは漠然と開発や国際援助に関心を持っていましたが、食糧問題や栄養問題への関心が深まり、人々が健康的な食生活を送れるようになる為の活動に携わる仕事がしたいと思うようになりました。グローバル問題の課題解決についての知識を深めるため、大学では総合政策学部で政策立案について学び、副専攻「国連・外交プログラム」では国際機関の取組などについて学びました。また、ボランティアやハンズオン・ラーニング・プログラムでの活動を通して、地域コミュニティがどのように課題解決に取り組んでいるかを実践的に学ぶことができました。

こういった学びや経験を得る中で、国際機関の現場ではグローバルな課題に対してどのように取り組んでいるのか、自分の目で見て



学びたいと思うようになり、国連ユースボランティアプログラムに応募しました。派遣先は食糧問題や栄養問題とは異なる分野の国連開発計画 (UNDP) サモアオフィスとなりましたが、私が学びたいと思っていた国際機関の課題解決の現場を見ることができると思い、派遣への決心を固めました。

### 活動中で印象に残っていること

現地の活動の中で特に印象に残っている出来事は二つあります。

一つ目は、派遣1か月後に携わったプロジェクトでの経験です。廃棄予定の魚の皮をレザー用品として再利用するというワークショップで、サポートスタッフとして活動しました。プロジェクトを進めていくうちに、湿度が高いサモアでは加工に使う道具が錆びやすく、頻繁に研ぐ必要があるということがわかりました。現地の人にとって加工用の道具の手入れという作業は慣れず、品質を保ちづらことから、プロジェクトの持続性が問われました。たった一つの課題点がプロジェクトの持続性や成立を危うくすることを強く実感しました。私は派遣期間中にプロジェクトの立案を任される予定だったので、自分が与えられた役割と責任にどう向き合うべきか再考する良い機会となりました。

二つ目は、現地で出会った方々の優しさです。慣れない環境や文化の中での生活でしたが、派遣先の同僚、ステイ先のオーナーとその家族の方々、現地に滞在している日本のみなさんからの温かい支援に助けられることも多く、忘れられない大切な体験となりました。

夢に一歩近づけた、サモアでの5か月間

2023年度参加

林 優花  
YUKA HAYASHI

所属  
総合政策学部3年(派遣時)

派遣先機関  
UNFPA(国連人口基金)

派遣先国  
ナミビア



### 国連ユースボランティアに参加した理由

参加を決めた一番の理由は、やはり将来国連で働きたいと思っていたからです。このように思ったきっかけは、中国にいたころに男尊女卑の考えが根強く社会に浸透していたことを肌身で感じ、強いショックを受けたことです。この経験からなぜこのような性差別が存在するのかについて疑問を抱くようになりました。その後、エマ・ワトソンが国連で行ったジェンダー平等を呼びかけるスピーチを見てとても共感し、ジェンダー平等の実現のためには自分が行動を起こさなければ始まらないと感じ、国連のような国際的な舞台で活躍したいという志が芽生えました。

大学に入学後、開発援助に関する実務経験が豊富な先生方のもとで学んでいく中で、開発途上国に貢献したいという気持ちもさらに強まりました。しかし、理論や教科書から学ぶだけでは現地の状況を理解することは難しく、途上国での援助がどのように機能しているかを知るには自ら足を運ぶ必要があると感じました。この国連ユースボランティアプログラムでは学部生であっても国連職員と一緒に活動することができ、国際援助の舞台裏を垣間見る絶好の機会であると考え、参加を決めました。



### 活動中で印象に残っていること

印象的だった出来事の一つは、国連の日(United Nations Day)におけるUNFPAブースの運営に携わったことです。10月24日に記念される国連の日は、1945年に国連憲章が発効したことを記念し、国連憲章の誕生を象徴しています。2023年の祝賀テーマは「SDGsを巡る旅」であり、ナミビアと国連の長年にわたる関係性を称えながら、各国連機関がSDGsに向けた協力の成果をブースで展示しました。着任して間もなく国連の日におけるUNFPAブースの設計と運営を任せられ、さっそくブースのデザインに取り組みました。UNFPAのブースではSDGsの「ジェンダー平等を実現しよう」という目標に向けての展示であったため、具体的にはUNFPAがSDGsにどのように貢献しているのか、どのような成果を挙げることができたかに着目して6つのポスターとビデオを作成しました。

これは私が初めて主体的に関わった活動であり、思い入れが深かったです。当日はナミビアの政府高官、市民社会組織及び各国大使館職員が出席されていました。急遽、私は上司からUNFPAブースに来場する全参加者に向けて3分間の歓迎と活動紹介をするよう頼まれました。原稿を準備することはできなかったが、ブース設計時の初心を思い出して取り組み、成功裏に終えることが出来ました。イベント後、UN Resident Coordinator(国連常駐調整官)とUNFPAの代表からは、「紹介が分かりやすく、ポスターのデザインも迫力があり好きだ」と褒められ、とても嬉しかったです。

### 国際社会貢献活動に参加した理由

世界のリアルな現状を知りたいと思ったことが大きな理由です。

大学に入るまで一度も海外に行ったことがなく、ただ漠然と留学にあこがれていました。はじめは、特に国際社会貢献活動へのこだわりはなく、むしろ、交換留学を真剣に考えていました。しかし、国際ボランティア担当の先生とたまたま出会い、徐々に国際ボランティアにひかれていくようになりました。先生の部屋を定期的に訪れていく中で、国際協力について、強く興味を持ち始め、今の世界で起こっていることを自分の目で見て感じたいと思うようになりました。現地の人々とともに汗水たらして働き、長い時間を一緒に過ごすことで、教科書やインターネットの情報だけでは得られない世界の本当の様子を知ることができるのではと考え、参加を決めました。

また、将来、高校の教師を目指しており、現地での経験が、教師になった後にも役に立つと考えました。教科書に書かれていることばかりを教える教師ではなく、実際に経験してきた、リアルな世界の状況を伝えられるような教師になりたいと思っていたことも、国際社会貢献活動に参加した理由です。

これら以外にも、ただ毎日学校に行くだけの学生生活ではなく、多くの人がやらなさそうなことをやってみたかったことも理由の一つです。中長期で途上国に派遣される他にはない貴重なプログラムで、一生の経験になることは間違いないと直感的に感じました。

### 活動中で印象に残っていること

特に印象に残っているのは、やはり生徒たち



との時間です。インドネシアに着いてから、初めて教室を見学させてもらった時の、先生の話を受けない生徒、机の上に足をのせてふんぞり返って授業を受けている生徒、授業がわからないと無言で教室から退出していく生徒。あの学園ドラマのような衝撃の光景は忘れもしません。これから5か月やっていけるのか不安はありませんでした。しかし、インドネシアでのほとんどの時間を派遣先の高校生たちと過ごし、日々全力で生徒と向き合っていく中で、信頼関係が徐々にでき始めていることを実感していました。帰国直前、たまたまインドネシアの独立記念行事の関係で早く学校が終わる日がありました。その日の昼に、生徒たちから呼び出され、指定された場所に行くと、なんと、お別れのランチを計画してくれていました。ランチだけではなく、さらに、最後の思い出にと写真館まで予約をしてくれていたのです。担任していたクラスの生徒と2時間ほど写真を撮り続けたことは本当に良い思い出です。そして、帰国前日、写真館での写真と生徒一人一人からのメッセージが入ったアルバムをもらった時、本当にインドネシアに来てよかったなど心の底から思いました。先生と生徒の「教える・教えられる」の関係が、実は、私の方が教えられてばかりだったのだなと気づかされました。



2023年度参加

副住 亮太  
RYOUTA FUKUSUMI

所属  
法学部3年(派遣時)

派遣先機関  
サティヤ・ワチャナ・キリスト教大学  
付属高等学校

派遣先国  
インドネシア

「国連ユースボランティア参加者の声」のより詳しい内容はこちらからご覧いただけます



2022年度参加

楊井 健太郎  
KENTARO YANAI

所属  
経済学部3年(派遣時)

派遣先機関  
UTAR(トゥンク・アブドゥル・ラーマン大学)

派遣先国  
マレーシア 



新しい自分を見つけさせてくれた国際社会貢献活動

国際社会貢献活動に参加した理由

大学入学前、地理や世界史を勉強することが好きで、幼少期から漠然と世界に興味を持っていた。また、伯父が世界をフィールドに活躍し、マレーシアに駐在しているということもあって、グローバルに活躍できることに憧れを持っていた。小学校のころは、ボーイスカウトをしており、誰かのために何かをしたい、そして人を笑顔にしたいと思うようになった。そんな思いから、自分のランドセルや書籍、文房具等を途上国の子どもたちに贈る活動を始め、また、祖母がマンスリーサポートをしているユニセフの募金活動にも尽力するようになった。このように、これまで日本から途上国に向けた活動は行ってきたが、実際、自分が途上国の地に足を踏み入れて活動することはなかった。途上国の人たちは、どのような生活をしているのだろうか？彼らは本当に苦しんでいるのだろうか？私たちの支援や援助を本当に求めているのか？彼らには何が 필요한のか？自分は現地でも何ができるのだろうか？…このような思いが膨れ上がり、自分の足で現地へ行き、そこで感じたことを考えたことを基に「自分の手で、何かをしたい」と強く思うようになった。しかしながら同時に、海外に1人で行ったこともない、英語も堪能ではない自分に果たして何ができるのだろうとも思うよう



になった。それでも、実際に自分で現地に行き、彼らのために何かをしたいという思いが私を突き動かし、国際社会貢献活動にチャレンジした。

活動中で印象に残っていること

活動中に印象に残っている出来事は、日本ではほとんど見かけることのない野犬の多さに驚いたことだ。このような出来事から、野犬をどうにか保護したい、町で貧しく暮らす野犬を減らしたいという思いで、野犬保護団体と協力して、野犬譲渡会を開催できた。日常の業務は、カンパーという小さな町で活動していたが、出張でイポーやクアラルンプールなどの都市へ行くことがあった。首都と他の都市との発展度合いには、大きな差があり、山岳地帯の村に調査に行くときは全く舗装されていないジャングルの中の道路に行くこともあった。首都だけではなく、地方にも富を分配するようなビジネスをこれから考えていきたいと思うようになった。しかしながら、山岳地帯の村の人々は、恵まれた生活をしていないにも関わらず、私が挨拶をすると笑顔で返してくれる人たちがばかりで、本当に豊かで幸せな村だと感じた。

マレーシアは多民族国家なので、小さな町でもマレー料理屋、中華料理屋、インド料理屋、タイ料理屋が軒を連ねている。週に1・2回開催されるマーケットでも、ローカルフードを楽しむことができ、あらゆる場所で多民族が共生しているなど感じた。休日には、屋台が集まっているフードコートに行き、上司と一緒にオープンスペースでおしゃべりしながら過ごすことが多かった。家族のことや、友人関係、生い立ちなど、はじめて会った人も巻き込みながら、フードコートにいる人たちみんなと話す時間が私にとって特別な時間であった。

教職員紹介

国際ボランティア担当教職員紹介

学内選考後から派遣までの準備や派遣中の課題について、相談・指導を担当する国際ボランティア担当教職員を紹介します。また、国際ボランティアがどのようなプログラムなのか、参加はしたいけれど何をしたらいいのかわからない、という方も、国際ボランティア指導教員と直接話をして、履修科目や履修計画について相談することをお勧めしています。

※面談を希望される方は、まずは<admin-iv@kwansei.ac.jp>宛に来室可能日を連絡し、アポイントを取ったうえで来室してください。  
(注意)メールを送る際、本文に「学籍番号(8桁)」「学部」「名前」を必ず明記してください。

担当教職員と会える場所

西宮上ヶ原キャンパス

- 国際協力事業室 (G号館1階)
- コース学習ルーム (G号館1階)

神戸三田キャンパス

- 1号館2階国際協力室
- ※指導教員は常駐していません。



【CIEC Webサイト】  
<https://ciec.kwansei.ac.jp/>



神戸三田キャンパスでは、国際ボランティア指導教員による「国際ボランティア相談会」を実施しています(予約不要・入退室自由)。実施スケジュールについては、決まり次第CIEC掲示板および CIEC Webサイトの「お知らせ」を通じてお知らせします。



関谷 武司 TAKESHI SEKIYA  
国際学部教授  
教育社会学



長 英一郎 EIICHIRO CHO  
国際教育・協力センター教授  
国際協力、持続可能な社会、  
リスクマネジメント



押切 康志 KOJI OSHIKIRI  
国際教育・協力センター教授  
国際協力、ガバナンス、  
途上国経済



佐久間 潤 JUN SAKUMA  
国際教育・協力センター教授  
国際協力、途上国の教育開発



国際ボランティア  
担当職員  
国際教育・協力センター  
(CIEC)